



家斉 (1773—1841)、在位 (1787—1837)、小出信濃守宛

本紙：檀紙 (楮 100%)、0,28 mm厚 寸法：縦一尺四寸六分 (436)× 横一尺九寸四分 (587)

将軍家斉から、小出信濃守英 (1775—1821) に下された礼状で料紙は特厚の皺なし檀紙である。この様な檀紙は、天皇・将軍への献上品として渡かれており、記録史料には備中松山城広瀬 (高梁) の柳井家が記されており、柳井家で渡かれた檀紙と考えられる。

同書包紙 杉原紙 (楮 100%)、0,2 mm厚、填料米粉入 寸法：縦一尺四寸六分 (436)× 横一尺九寸四分 (587) 礼状包紙の「小出信濃守との」と書かれた料紙は、米粉填料が入った杉原紙で奉書紙に良く類似した紙に包まれている。



細川斉護 (1805—1860)、左近衛権中将従四位
文政九年 (1826) 九月十八日、江嶋傳左衛門宛

本紙・包紙：奉書紙 (楮 100%)、0,28 mm厚、填料米粉入 寸法：縦一尺四寸六分 (436)× 横一尺九寸四分 (587)

上包紙：杉原紙 (楮 100%)、0,2 mm厚、填料米粉入 寸法：縦一尺四寸六分 (436)× 横一尺九寸四分 (587)

この判物は、藩主斉護から江嶋傳左右衛門に下された領土安堵状で、判物の本紙と「江嶋傳左衛門との」の包紙は奉書紙であり、傳左衛門の手元に来た伝達経緯が書かれた上包紙は杉原紙が使われており、手元まで北伝達方法が細かに書かれた経緯が判る史料である。